

# 特集 “水素”

**水** 素商材市場の潮目が変わりつつある。水素吸入器や水素点滴、水素ドージングなどの水素療法を導入する医療機関は全国で500施設を超え、なお増加している。水素商材メーカーに代理店契約の申し出を行う企業も、一部上場の大手医療機器商社などが増えているという。健康経営を目的に水素水サーバーや水素水生成器を導入する大手企業も増加。個人ユーザーでは、クリニックで水素療法を受けている患者を中心に、健常者では医師や治療家が自ら利用するケース、さらにアスリート、モデルなど芸能人が多くを占める。なかでもプロや五輪選手をはじめ、多くのアスリートが水素商材を利用、効果を実感しており、水素商材の市場拡大に一役買っている。

## 水素商材、アスリートに広く浸透

「水素水はいんちきだ」——。メディアによる一方的なネガティブキャンペーンで、打撃を被った水素商材の市場が200億円台の大台まで回復してきた。2月の「健康博覧会2022」の講演では、水素研究の第一人者である慶應義塾大学の佐野元昭准教授が、ブタを用いた実験で水素水飲用時の薬物動態について解明した結果を報告。水素水を飲用することで十分に水素ガスを吸収でき、様々な健康効果に期待できると指摘。いんちき説を払拭した。

そもそも水素水をはじめ水素商材がいんちきなら、なぜこれほどの支持されるのか——。水素商材の絶対的なユーザーはアスリートだ。4月7日には、日本トリムとJリーグのアンドレス・イニエスタ選手が電解水素水整水器のアンバサダー契

約の締結を発表した。水素吸入器のSUISO JAPANも今年2月、元プロ野球選手の桑田真澄氏とアンバサダー契約を締結している。ほかにもイズミズはバスケットボールBリーグの大阪エヴェッサ、日省エンジニアリングは宇都宮ブルックスとスポンサー契約をしている。

これらは一例に過ぎず、野球、サッカー、バスケットボール、水泳、スキー、フィギュアスケート、相撲、柔道、体操——など、競技を問わずプロや五輪選手などトップアスリートはもちろん、最近では全国大会常連の大学や高校の有名クラブ選手などにも水素商材のユーザーは拡大している。また、スポンサー契約こそしていないが、プロのスポーツチームが水素水サーバーや水素水生成器、

# 医療機関・アスリートから絶大な支持

## 水素商材市場、潮目変わる

水素商材市場の推移



水素吸入器を導入している事例も少なくない。なかには、アスリート個人が事業として水素サプリメントや水素水生成器を販売しているケースも見られる。

自らの身体やメンタルのケアを重要視するアスリートの多くが、水素水や水素吸入、水素サプリを利用しているのは紛れもない事実だ。効果を実感できなければ、水素商材がこれほどアスリートに浸透することは考えられない。

## 医療分野への導入も活発

また、メディカル・コメディカル分野でも水素商材の導入に積極的だ。今回の取材・調査では、水素商材の販売先としてトップが治療院、3位が医療機関となった。なかでも水素吸入器は、慶應義塾大学をはじめ国内外の様々な大学や医療機関から、多岐にわたるエビデンスが発表されていることもあり、大型装置を中心に医療機関や治療院への導入が進んでいる。もちろん、水素ガス吸入療法が2016年に厚労省から先進医療Bに指定された点、また中国で昨年、水素・酸素の混合ガスの吸入がCOVID-19患者の重症度と呼吸困難の改善に関する有用性が論文発表された点

なども大きい。

水素吸入器をはじめ、水素点滴や水素ドージング、水素水透析などの水素療法を行う自由診療クリニックは500施設を超え、なお増加している。内科や皮膚科、歯科、美容整形、獣医——など、幅広い医療機関が水素療法を実践しており、医療分野における水素の地位は確立されつつあることがうかがえる。また、全国展開するアトラグループなど大手をはじめ、アスリートのケガのケアやコンディショニング、来院する様々な疾病を抱えた患者のQOL向上を目的に、水素吸入器を導入する治療院も増えている。

メディカル・コメディカル分野で水素吸入器などの導入が進む中、代理店の申し出を行う企業も、一部上場の大手医療機器商社など、社会的信用の高い企業が増えているという。また健康経営を目的に、オフィスや事務所、食堂などに水素水生成器や水素水サーバー、水素吸入器を導入し、社員の健康管理に活用する企業も大手を中心に増加している。今回の取材では、多くのメーカーから「水素商材市場の潮目が変わりつつある」「大手企業が関心を示すようになってきている」といったコメントが聞かれた。

16面へ続く▶

水素水	水素水生成器	水素水サーバー	水素吸入器	水素発生剤
高濃度の水素ガスを溶解させた水を4層アルミパウチに充填したアイテム。1回飲み切りの個包装で、携帯性にも優れる上、手軽に水素水を飲用可能。	自宅の水素水が作れる機器。浄水機能付きタイプや浄水機能がなく、市販のミネラルウォーターなどから水素水を作るタイプがある。出来立ての水素水が飲用可能。	決済システムを搭載した業務用は、フィットネス・スポーツ施設で定番アイテムに。オフィスや企業の社員食堂などにも設置が進む。家庭用は購入とレンタルがある。	高濃度の水素ガスもしくは、酸素と水素の混合ガスを吸入する機器。大きさ・水素発生量とも様々なアイテムが登場。カニューレがないタイプも登場している。	サンゴやシリカなどミネラル素材に水素ガスを吸蔵させた素材。高濃度の水素ガスを発生するタイプ、水素イオンタイプなどがある。化粧品やサプリメントの原料として使用される。



TRIM ION Refine

### 毎日を生きる水。毎日が活きる水。

カラダにいい食べ物を摂るように、カラダにいい水を摂る。それを可能にするのが、電解水素水整水器。

蛇口に取り付けるだけで水をろ過するのはもちろん、カラダにいい水、電解水素水をいつでも飲むことができます。

知らず知らずのうちに、健康習慣になっていく。毎日を生きる水、毎日が活きる水。



☎ 0120-328-106 [www.nihon-trim.co.jp/refine/](http://www.nihon-trim.co.jp/refine/)  
 株式会社日本トリム 〒530-0001 大阪市北区梅田二丁目2番22号 ハービスENTオフィスタワー22F



特集 水 素

イニエスタ選手とアンバサダー契約  
アスリートも愛用の電解水素水を提案  
日本トリム

(株)日本トリム(大阪市北区)は、電解水素水整水器のリーディングカンパニーとして、管理医療機器「トリムイオン」シリーズを展開。主力アイテムの『トリムイオン リファイン』(写真)は、透析現場で培った技術を採用し、コンパクトかつ求めやすい価格を実現しながらも、最大1,100ppbの高濃度電解水素水を生成可能なアイテムだ。「胃腸症状の改善効果」も認められおり、コロナ禍で腸内環境改善と免疫の関係性が注目される中、順調に売

れ行きを伸ばしている。

同社では、「エビデンスのない商品は世の中に受け入れられない」との企業理念の下、これまでに電解水透析などの医療分野をはじめ、電解水素水飲用の様々な機能性研究を実施、その成果を国内外の学会や論文で発表してきた。2020年4月には、英国の生理学専門誌『Temperature』に、立命館大学との共同研究で、トライアスロン選手12人を対象に、暑熱環境下での持久運動時の電解水素水飲用によるエネルギー消費省力化に関する論文を発表、ほかにも抗疲労効果、ストレス耐性増強効果などについても発表している。

このため、同社製品は多くのプロスポーツチームや、大学・高校の強豪スポーツクラブへの設置をはじめ、アスリート個人の愛用者も多い点も特長だ。4月7日には、同社製品の愛用者の1人で、Jリーガーのアンドレス・イニエスタ選手とアンバサダー契約を締結。同日の記者発表会でイニエスタ選手は、「アスリートにとって、日常的に体内に摂り入れる食事や水は、質の高いものであることが非常に重要」とし、「日本トリムの研究に裏付けられた水は、飲んでいて気持ちが良い、非常に好きだ。今回、日本トリムの一員になれたことは嬉しい」と挨拶を述べた。

同社経営企画部の平井健太郎部長は、「世界的な一流アスリートがコンディション作りのために、当社の電解水素水を日頃から愛飲して頂いていたことも、今回のご縁に恵まれたことも非常に嬉しい」とし、「アスリートが選択した水を、一般消費者にも予防・健康のために飲用して貰えるように、今後も普及・啓発を進めていきたい」としている。

